

NPO 法人近畿水の塾

平成20年度事業報告書

平成21年 5 月

継続的な公開研究会『河川塾』の実施

1. はじめに

2000年(平成12年)9月に八幡市で開催した「川に学ぶシンポジウム in 近畿」の終了後、実行委員が川に関する人のネットワークの継続や知識の習得を兼ねて、摂南大学澤井教授を中心にスタートし、2002年(平成14年)年8月よりNPO法人近畿水の塾の事業の一つとして継続している。

2. 実施内容

河川を楽しく、幅広く、実験・具体例(フィールドとしてピオトープづくりや河川蛇行実験など)を併せてわかりやすく学ぶこと、様々なセクターからの受講生が時の話題・情報を提供する。

第1回は2000年11月に始まり、2009年3月の定例会で90回を迎えた。受講生は、学生・行政担当者・コンサルタント・市民など会員及びその紹介を受けたもので、2000、2001年は河川の基礎工学シリーズ、特別フィールドシリーズ(ワーキング)、2002年はマイリバーシリーズ、2003年は河川関連法(自然再生から淀川を例とした河川整備計画)、2004年は淀川の整備計画と水資源、付替え300年を経た大和川など、2005年は琵琶湖・淀川、都市と農、市民参加型公共事業など、2006、2007年はマイジョブ&リバーとして会員の仕事と川への関わりなど、2008年はマイジョブ&リバー、流域委員会シリーズ、古老に聞くシリーズなどを中心に展開した。

回	月/日	内 容
89	2/24	環境モデル都市・堺 (船本 浩路)
90	3/24	数値解析による上野遊水地の洪水調節効果に関する研究とボクの遊んだ川と田んぼ (村田 遼介)
拡大版	9/6	第1回「おじいちゃんの仕事、おばあちゃんの暮らし」ヒアリング ～主に、名張川の環境、名張川との暮らし今昔を聞きました～ 名張市下比奈知鈴木幹子さん宅にて (鈴木幹子さん, 鈴木紀さん, 鈴木雄治さん)

3. 成果

近畿における川や水辺に関する知識を得、時の情報を共有でき、また各地での活動を知り、様々な団体との交流が図れた。

4. 今後の課題

- ・事前に講座・フィールドの希望内容を会員より収集
 - ・会員・受講生より得た情報などから、不定期に新たな知見を得られるシリーズ(フィールド・講座)の設置
 - ・二級河川の流域連携
- など、新年度に向けた内容等を検討する必要がある。

5. その他

今後の具体の予定として、

- ・マイリバーを継続して、情報を蓄積し交流をはかり、またこれらを紹介しながら川の評価基準により表彰する
- ・河川踏査、写真・資料収集等
- ・干潟事例報告、提案
- ・環境学習の検討報告
- ・河川で合宿 フィールドワーク
- ・古老の記憶を未来へなどを検討中である。

(報告 西河)

回	月/日	内 容
81	2008/4/23	自然環境復元は、人間性の回復だ!! (前田 誠一郎)
82	6/24	川づくりの最前線 (小俣 篤)
83	7/22	川への思いと、企画シンポジウム「全国川シンポ」への期するものと広報 (今本 博健)
84	9/6	第1回「おじいちゃんの仕事、おばあちゃんの暮らし」ヒアリング 名張市下比奈知鈴木幹子さん宅にて
85	9/30	上下流の住民交流の必要性 (久保田洋一、寺川裕子)
86	10/21	猪名川自然林保存運動、流域委員会での経験、特に一流域住民が流域委員会に加わることの意味、藻川の堤防を考える会の活動など (細川 ゆう子)
87	12/22	百姓見習い～ある都市農家長男による稲作記録の報告～ (安田 博之)
88	2009/1/27	水と共に暮らす事の意味 (福廣 勝介)

各種聞き取り調査や川の資料づくりの実施

「おじいちゃんの仕事、おばあちゃんの暮らし」 報告

第84回河川塾は、平成20年9月6日(土)13時30分~18時。名張にお住まいの鈴木幹子さんのお宅におじゃまして、「名張川の環境、名張川との暮らし」などのお話をうかがいました。

鈴木幹子さんは79歳、アユ釣り名人であるほか、クラシックバレエを踊り、「風人」短歌会主宰、ソプラノ歌手という様々な才能の持ち主です。川の会・名張顧問。

鈴木紀(おさむ)さん(70歳。そば道場:「そば紀」主宰)と妻の美和子さん、鈴木雄治さんと妻の美代子さんにもお話をうかがいました。全員、「鈴木さん」です。以下は聞き書きです。

毛バリでハエを釣った。四間(しけん)橋そばでアユを釣った。土用の頃は暑いから、水の深い奥の方で釣ると大きなアユが釣れた。「土用隠れという。」「下流ほどよく取れる。えさの問題かな」(現場にはアユがコケを食べた「はみあと」が残っていました)。

「あさかお洗う」「川で芋を洗う」など、昔、川は生活の一部だった。「しょんべん」することもあったが、昔は上流下流のあうんの気持ちで、川を汚さないようにしていた。人があまり住んでいないので、大丈夫だったのかもしれない。上流でナベを洗うと、ナベの底のススが流れてくる。それがくると、「としちゃん」が潜ってそのススを体に付けて真っ黒になる。それを楽しんでいた。これは、おじさんが歯医者していた付近の「築瀬水路」(?)の話。再び水に入るときれいになる。

アユは、なわばりがあり、いいところをとる。直径で、1mから1m50くらいの範囲。結婚してからアユ釣りを始めた。

父親は毎週のようにアユ談義で、しかけを家で人に見せないように隠して、人に教えなかった。テグスは、昔はアオムシのハラワタを加工したもの。乾かしたら丈夫になるが、使い方はむずかしく、緩ませると切れやすかった。辻本さんのお父さんの「うすけさん」が、テグスを隠してあった箱火鉢を盗み見に来た。みよちゃんというまじめな女中さんが、それを見て、大変だと父に言いつけた。父は「うすけさん」に、持って帰れと言った。腕が違うから「う

すけはどうせだめだろう」といった。「うすけはん」は「へっ」と言って帰った。父はえらそうに言っていた。

今は、ダムの影響でアユが移動しないので、大きな「尺アユ」になる。しかし美味しくない。球磨川は尺アユで売り出しているが。

鈴木雄治さん:じいさんの時代は、鉄砲水のとときに淀川まで木材を流した。水をためておき、大水の時に流した。

福廣(会員):焼けた石でふろを沸かしたことはあるのだろうか。

鈴木雄治さん:ないと思う。でも非人子(ひにんこ)さんがきたら世話していた。それを華房良輔さんに話したら、「伊賀の手仕事」と題して本に書いた。

幹子さん:大水が出たときにギョングョ(ギギのこと)を釣った。ナマズ風で茶色。うちはレンガ会社をしていて、その家に住んでいた。電気で魚を取った(比奈知大橋のそば)。垂直護岸は、もってのほか。

そば紀さん:大阪府下の川は極端に言えば川ではない。目的が違う。このあたりの川は生活の一部。

幹子さん:堤防高いのは必需品やね。いややと思うのだろうか。しかし元を糾せば住むのが悪いのどちゃうのかな。借景といえば、先日隣の物置が突然崩壊して、赤い埃が舞った。借景で侘び住まいの雰囲気だったが、今は残骸。早く撤去してほしい。

雄治さん:ダムができる前は台風で川が洗われて、川原に砂場ができた。砂が取れると言って土建屋が喜んでいて。ヤツメウナギが大水の時に出来た。野球ができた。今は魚がいない。川を生業にする人は昭和36、37年ころまでいた。

幹子さん:輪束(わづか)というのをづくり、どんであぶった魚を乾かして売っていた。主人の母親は、それをはずしてあぶってショウガ醤油でたべていた。シラハエ:しろいハエ(オイカワ)。冬のは寒バエと呼んだ。フナは食べなかった。

そば紀さん：寒バエの時代は医者先生のしょぼ（専用特許みたいなもの）があり、昆布巻きをつくっていた

上田（会員）：小さい頃、うちも輪束をしていた。冬に甘露煮を作っていた。神田（「かみだ」：寝屋川市内）は輪中。ハエがいっぱいいた。ひなだ（水路沿いで作業するところ）で活動していた。



名張川で話を聞きます。

そば紀さん：名張に移り住む前、名張に来た時は曾爾まで釣りにいった。アマゴ放流していた。今でもしている。大人がたくさん集まって子どもが集まる感じで、ギューギュー詰めで釣っていた。現在天川村では禁止している。結局、名張が気に入って引っ越してきた。

雄治さん：（歌の紹介）青サギはずるがしこく、穂先に直行する。釣ったものをトンビに取られたことがある。昔のことを言ってもしかたないが、ダムは問題だと思っている。垂直護岸はどうにもならんことは話してもしかたないだろう。（報告 久保田）



名張川は護岸が整備されています。



鈴木幹子さん。元気でした。



地元の方にとってもお世話になった宴会です。

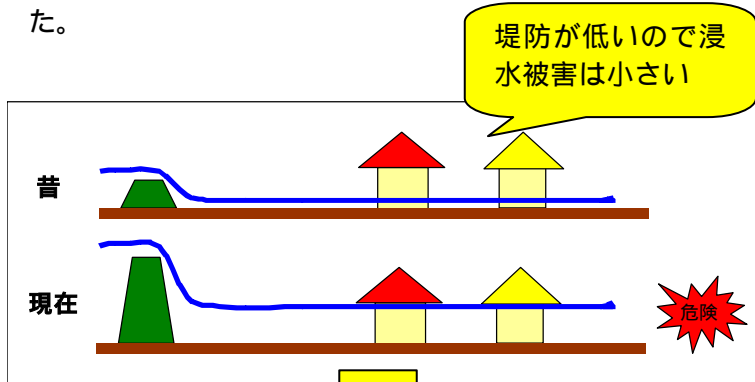
宮本博司氏による講演『淀川水系流域委員会の取組み』

< NPO 法人近畿水の塾 第7期総会 記念講演 >

日時：平成20年5月31日 14:40～16:00
場所：大阪府環境農林水産総合研究所

淀川流域委員長の宮本博司さんより、淀川水系流域委員会の取組みと、ご自身の川への想いを語っていただいた。

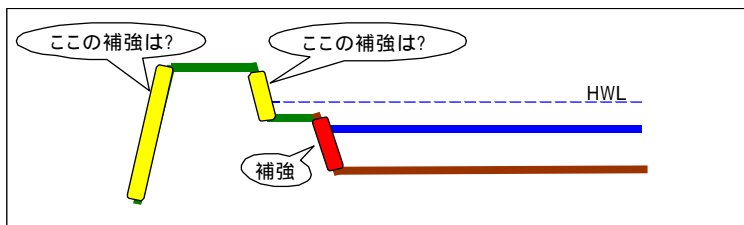
淀川
大阪は昔、川の集積地であった 堤防で川を固定化し、川と地域を分断し、洪水を押し込めようとした。



結果

逆に危険となった!!

だから、破堤だけは絶対に防がないといけない。堤防を補強する必要がある。しかし、補強方法も浸透・洗掘破堤の補強しかしない。越流破堤の補強もしたらいいのでは？そしたら、大戸川ダムのように、計画高水位（HWL）を17cm 超えてしまうからダムをつくるということもなくなるのではないかな？



また、ダムや堤防だけでなく洪水を公園や田畑に分散させるといった、洪水を地域で受けとめる治水が必要ではないだろうか？ (報告 村田)

日

(宮本さん語録1)
淀川のわんどで、イタセンパラの赤ちゃんが目があった。そのときのことが忘れられない。



(宮本さん語録2)
下水処理場から聞こえる機械の音が僕には悲鳴に聞こえる。



宮本さんとげんきの大将のツーショット
鶴橋「げんき」にて

近畿水環境交流会 in 伏見の開催

日時：平成20年7月26日(土)、27日(日)

開催場所：1日目 月桂冠 昭和蔵

(京都市伏見区西大手筋)

2日目 伏見みなと広場周辺

(京都市伏見区中書島駅西1km)

プログラム：

1日目 七瀬川二層河川見学、伏見界隈散策
シンポジウム

・「淀川水系の治水の歴史」

中川一(京大防災研究所教授)

・「酒と文化」

栗山一秀(月桂冠大倉記念館名誉館長)

2日目 河川敷清掃、河川公園利用マナー講習

水面利用の実践(十石舟、Eボート乗船、
水質試験、生物観察等)

Eボートレース

1日目報告

(午前中は名水百選や七瀬川二層河川、琵琶湖疎水、
伏見みなと、などの現地見学会をしました)

澤井先生あいさつ

最近の流れとして、近自然工法、流域連携のシンポジウムなどの活動がある。我々が川に近づけなくても水を気にしないという構図ができるのはまずい。水環境を維持することに無頓着ではいけないと考えた。もう一つは時代の流れ。受け継いで行きたい。何かしようと考えたが、流域を連携する運動がなかったので、当時淀川河川事務所に相談にいった。まず淀川流域で琵琶湖で実施した。その後、各府県をまわった。木津川上流、奈良盆地、柏原、紀ノ川、猪名川、去年は寝屋川、今年は京都で実施することになった。

「活かそう水辺、つなごう流れ」まずは川に近づきたいと考えた。そして、上流下流、右岸左岸、流域同士のつながり、分野でのつながり、などを考えた。時代のつながり、年齢を超えたつながりも考えていきたい。午前中も70名で地域を巡った。多くの方にご支援いただいている。

伏見区役所きたがわさんあいさつ。

水と伏見は関わりが深い。今日の交流会が今後も期待している。代読。伏見は豊富な湧き水がある。水が育んだまちづくりに取り組んでいる。

中川一教授講演。

歴史あるところをみせていただいた。こんなに暑い中、メモをとっておられる姿に頭が下がる思いをした。少しでも役に立つ情報を提供できればと思う。流域とは、地域の水を集めるところ。しかし流域で降った雨が地下から他に行くこともある。デレーケは舟運のために水制をつくったが、砂防工事にも詳しくだった。明治28年に大水害。29年河川法。小倉池は水質悪化による病気まんえん、悪臭などが建設の理由だった。

・質疑

問い：住民が川に関わることをもう少し話してほしい。

中川：社会資本整備の委員会に参加しているが、淀川水系流域委員会でのやり取りを、国がどう評価するか、その整合が取れていない。参考にするというのがどの程度かが成熟していない。そのあたりがうまくいけばよいだろう。予算の問題もある。

問い：流域委員会は一步踏み込んだ関わりを出すべきではないか。

中川：我々自身も見識を持たなければならない。それは承知している。1440。

栗山一秀月桂冠大倉記念館名誉館長 酒と文化
1440

昔は天馬の八軒屋まで30石船が行き来して繁栄していた。月桂冠は370年の歴史がある。お酒は2千数百年の歴史がある。米作りが定着し同時期に酒造りが進んだらしい。「酒は日本のこころかたち」八百万の神。北野は勉強、稲荷は商売など、必要な時に出勤してくれる。

花見は田の神の「サ」、よりしろは「クラ」それで「サクラ」。神様と飲むことが宴会の始まり。新嘗祭は、本当は天皇が関わること。神様と一緒にお酒を飲む人のこと。これが日本で一番大事な行事。今も続いている。これが古代からつながるもの。お酒は神様のお下がりをいただくもの。大きなさかずきだと皆まで酒が回らない。そこで、皆が個別にさかずきを持つようになった。

かけつけ3杯というのは、皆と一緒に飲んでいるのに、皆と同じようにという思いやりなのである。いつのまにか神様がいなくなった。隠座(おんざ：2次会のこと)。日本は、結婚はキリスト教、お祈りは神社。死んだら仏教。これは神様が必要な時にやってくると考えている。例えば地鎮祭これは神主が出張してくる。神主が代読する。済んだら「なお

らい」(宴会のこと?)になる。社長は神様みたいなもの。

お酒は爛するが、温度が変わるのは日本だけ。しかし爛の温度はいろいろ。酒の味がわからないようにするのが熱爛。香りも飛んでしまう。ながっちり(長居)を帰すための熱爛もある。俳句をテーマに酒をつくったりもしている。情感で飲んでほしい。

質疑

問い：海外の酒を日本でつくったり、アメリカでつくる場合もあるだろう。水とお米はどう手配しているのか。

日本のお米は高いので、輸出すると高くつく。でミッションを組んで分析して、試験的にアメリカ衆都であるサクラメントの水を使った。米はサクラメントバレーの農家と契約。もう20年経過している。



伏見、清和の井。現役です。



名水百選。訪れる人が多いそうです。

問い：日本の酒造りの状態。文化としての食、宮水全部地下水利用。伏見の井戸の水位が下がり、京大に相談して地下水調査した。まだ生きていたが、保存するために保存委員会をつくり建設業者をお願いした。今は下水道工事にあたり折衝。河川を守ることも必要と考え、清掃活動も開始した。1週間かかった。

問い：俳句というお酒はどうなん？

味を表現するのはむずかしい。オペレーターが外人。アメリカ人が好む風味にきめ細かさをいれた。
(報告：久保田)



七瀬川。2層式の河川です。左がトンネル。



伏見会場にて。講演会と交流会。

2日目報告

とてもいい天気の中、Eボートに乗りました。川の上は、爽やかな風が吹いていて、最高の気分でした。(感想：足立)

～猪名川・藻川の清流復元～水辺まつり Eボート体験(報告)

1. 趣旨

日常生活の中において水辺に親しむ機会が少なくなった大人や子供たちが少しでも水辺に親しんでもらい、水辺の生物や水辺から見た街の風景など新たな発見を体験してもらう。また、ボートに乗り、力を合わせて漕ぐことから生まれる連帯感や協調性を実感してもらう。

2. 内容

- (1) 日時 2008年9月14日(日)午前10時～午後3時00分
- (2) 場所 藻川左岸河川敷(中園橋東詰河川敷/尼崎市田能)
- (3) Eボートの数 1艘
- (4) コース
会場付近から乗船し、水管橋で折り返し帰る。1艘につきスタッフを2名配置し、1回の乗船で参加者8名が乗船。所要時間は15分程度。

3. スタッフ

- ・ 近畿水の塾 安田、白樫
- ・ 摂南大学工学部澤井ゼミ 村田 他 2人



4. 参加者 乗船体験者数 12回運行
約96人

5. スタッフの感想

- ・ 川の水深が浅く浅瀬があるため、操船が大変だった。特に上流に向かって進む時は、なかなか進まず、スタッフの学生が胴長を着て、川に入りEボートを押さなければならなかった。
- ・ 狭い水域に、Eボート、筏、葦船が入り乱れ、ぶつからないように運航するのが大変だった。

(報告 白樫)



「川の全国シンポジウム - 淀川からの発信 - 」への参画

1. 参画に至る経緯

7月の河川塾で講師の今本博健さんから企画中のシンポジウムについて話題提供があった。それを受け、改正河川法の河川環境保全の重要性の明文化や、河川施策への住民参加と住民意見の反映という重要改正点が河川整備に活かされているのか？という視点での河川整備のあり方を話し合うというシンポジウム開催趣旨への賛同人 (= 実行委員) の募集を会員内外に呼びかけた。

【実行委員会】

会員からの賛同人 (= 実行委員) の2・3名の実行委員会への積極的参加があった。

2. 近畿水の塾としての活動

- 2日目の開会前と昼食休憩時の「みずになったふるさと」(今総会後も上映)の上映担当、アンケート配布・回収
- シンポジウム連携行事として、H20.12.13 尼崎にて開催予定の当会主催の自主上映会《「水になった村」上映会 & 大西暢夫監督と語る会》のチラシ配布(別紙報告)
- 懇親会バックアップ。

3. シンポジウムに参加して

- 世の中に「噛み合わない事は幾つもある」。それくらいは承知していたつもりだが、実際噛み合わない！それは正当性の主張なのだろうか？単なる自己主張なのか？それを多数派工作の政治決着で図ろうとするのか！あるいは好き嫌いののだろうか？プラットホームなどと言うが、同じ土俵に乗ってこなければ、本当に噛み合わない。どちらが悪い以前である。河川整備への考え方ばかりでない、実行委員同士の間にも。そこでは同じ土俵に乗ることを狙いにした、そういう壮年・熟年の2極(いや多極か?)対立(対立以前かな)がある。そういう事の多い中、徳島からそして京都を中心とする近畿各地からやって来て、僕らが見捨てたような川でも、「楽しいやん、何嘆いてばかりいるねん」と言う沢山の学生・青年達が参加しているのに出会った。

昨日も、今日も、あるいは明日も、ある意味変わらず流れる淀川のほとりで、新しい第3極が生まれつつあるのかもしれないと思った。(福廣)

- 現在携わっている地球温暖化対策と同様に、河川環境の保全も、将来を見据えた姿、暮らしの見直しも含めたシナリオが描けるか、また、実現するための仕組みがつかれるかどうかであると思います。もちろん行政と住民で。(南)

4. シンポジウムの概要

詳細な報告書が作成されているので内容は実録詳細報告書を参照してください。(現在も販売中 ¥ 1,000 -)

11月1日(土): プレイベント

京都サイクリングツアー〔桂川サイクリングロード等: 11名〕淀川奴-体験〔淀川河川公園枚方地区: 70名〕、近木川ワ-ショップ〔大阪府貝塚市: 18名〕、丹生ダム計画地見学ツアー〔滋賀県余呉町: 15名〕、前夜祭〔京都大学吉田生協: 60名〕

11月2日(日): シンポジウム〔京都大学百周年時計台記念館〕

基調講演 河川法改正の意義、広域行政の必要性
淀川水系流域委員会からの発信

報告: 淀川水系流域委員会が目指す新たな川づくり
パネルディスカッション: 淀川水系流域委員会の実態
出席者からの発信パート1
知事からの発信(京都府知事、滋賀県知事、大阪府知事のMr.ト) 特別出演: 川への思いを語る(加藤登紀子)
懇親会〔京都大学吉田生協: 219名〕

11月3日(月・祝): シンポジウム〔京都大学百周年時計台記念館〕

討論 河川法改正の趣旨は活かされているか
特別報告 全国における流域委員会の実態、水制度改革国民会議について
出席者からの発信パート2
総括報告
京都宣言

淀川は川でなく水路になっています
琵琶湖はもはや死に瀕しています
淀川と琵琶湖の生命(いのち)が危ういのです
川に生まれる生き物たちの生命(いのち)が危ういのです
私たちの生命(いのち)が危ういのです
この状況は全国の川や湖でも同じです

このような川と湖を子や孫に引き継ぐことはできません
これまでの「川づくり」を根本的に変えなければなりません
もう行政にだけ任せではいけません
任せてきた結果が現状なのですから

私たちは
川や湖を痛めつけてきた責任を痛感し
一人一人が考え方や生き方を変えることによって
川と湖の再生に取り組みます

2008年11月3日
川の全国シンポジウム 淀川からの発信

賛同人(個人、法人・団体) 526名
シンポジウム参加者: 実行委員 261名、当日参加 310人
ポスターセッション: 30団体
主催: 川の全国シンポジウム実行委員会(川那部浩哉委員長)
後援: 朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞大阪本社、産経新聞社、KBS 京都、京都弁護士会、近畿弁護士連合会

「水になった村」上映会 & 大西暢夫監督と語ろう会

日時:平成20年12月13日(土)13:00~16:00
場所:尼崎市立小田公民館 参加者:51名
川の全国シンポジウム京都の連携行事

「川の全国シンポジウム(11/2・3・京都)」連携行事
- 特『柳川製菓物語』・特『阿賀に生きる』に続く第三弾! NPO法人近畿水の塾 自主上映会 -

「水になった村」上映会 & 大西暢夫監督と語ろう会

自然との共生とは
本当に豊かな暮らしとは
そして、ふるさとへの想い...

日時:平成20年12月13日(土)
13:00~16:00(開場12:30)
場所:尼崎市立小田公民館(JR尼崎駅北すぐ)
資料代:会員・学生500円 会員外1000円
(定員は150名(先着順)です。事前申し込みが必須です。)

日本最大のダムに沈む村 15年のドキュメンタリー映画

20代だった僕と80代だったじよばあさん。5合の炊き込みごはんを2人で一気に平らげたお婆ごはんの記憶は、何年たっても僕たちの間で話題になった。「じよさん 食い過ぎやで!」山で食べると何ともおいしいの。ほほほは〜」15年の関東豪雨から通い、ジジババたちとよく食べよく笑った。ここは僕の宝物だった。ジジババたちが山を去る日、僕も通山に別れを告げた。この場所を繰り返し巡ることで村の記憶につながってゆくのだろう。

大西暢夫監督
おもしろいのであります!

水になった村

主催:NPO 法人近畿水の塾

会員、会員外からもたくさんの参加がありました。学生さん、20代、30代の若い世代の参加も多かった。大西監督と会場とのやりとりは、一体感があり、とてもいい雰囲気でした。上映会のあとの懇親会も半分以上の人が残り、楽しい会になりました。

(参加した方々の感想抜粋)

ジジババたち、彼らの先祖が長い時間をかけて守ってきたもの、大切なものが、ある時プツンと切れる瞬間をみたような気がします。「時代の流れ」では片付けられないような大切なものを日本人はここ50年間くらいの短い間にことごとく壊したかもしれない気がしました。(安田)

水に沈むとわかっているけど、わさびの小さなものを植えなおしている姿。その土地で生活してきた習慣ですね。(Sさん)

日

街に移りすんだじよさんには笑顔がなかった。村の生活をうばわれたと同時に生きる力もうばわれてしまったのかもしれない。“豊かな生活”とは・・・。思い描いているものは、人それぞれちがうだろう。でも、人間として、地球に生きていくものとして考えた時、本当に“豊かな生活”っていうものがひとつのところに向かうものであってほしいと願う。(Oさん)

(じよさんの家を取り壊す)重機の音と水の音のギャップ。・・・。たまらんです。(Sさん)

ゆきえさんのお宅で流れたニュースの映像がとてもつまらなく感じました。情報、報道でしか知らないのに知ったような顔をするのは、嫌なことだと改めて感じました。(Sさん)

静かな静かな村で、そのトコロにきこえるのは、生きものの声でした。塩さえあれば、家族を腹一杯にできる。宝物としての冬の保存食のつけもの。私は、農を、農のあり方をもういちど考えた。楽しいということが、生活と直でむすびついてた。今、話題になってるカオの見えるかんけい、なんて、そんなレベルの話ではない。「毎日金」の世界になったとたん、人間の生活は単純になり、考えるコト、想うコトを失ってしまった。「もし、私の産まれた、生活した所がダムで沈んでしまったら、」というコトを私はよく考えました。現実味はなくて考えてて・・・そういうコトではなくて、何を一番に考えていかなあかんのは、今生活している足元のコトだろう。(Mさん)



とにかく食べているものが!!どれもおいしそう
で!!映画中ずっと食べたくて。いや、それより、
まずこれ同じ国の話なのかとおどろきました。そ
れほど違って、知らない世界になっているの
ですね。同じ国の話なのに。私、これでいいのか
と思いました。母にも見せたいな。自分の食べ
物を考えるとはずかしいーと思いました。あ、そ
れと、ゆきえさんだったか・「糸の切れた凧み
たいで、こんなに幸せひとりじめしていいかな
ー」って野の中の風呂につかりながら言ってい
たの。何か、全くつながりのない自分だけど、と
ても勇気がわいてきました!!!

じょさんの笑い方「ひゃひゃ」が耳に残った。

映像でみたおじいさん、おばあさんは、家や服装
を見るととても豊かな感じには見えませんでし
たが、山菜とりやご飯をつくる姿、魚獲り……。
生活する姿を見て初めてこれが本当の豊かさだ
と気づきました。この映像は単なる村がなくなる
といったことの寂しさ、郷里のための記録映画で
はなく、日本人の豊かな生活とは何かを考えさせ
る映画だと思います。ダムに沈む村だけでなく、
きっと日本の過疎の村々の限界集落でも同じこ
とが起きているのではないのでしょうか？

すぐには言葉にならないというのが、今の感想で
す。食べることは生きること。(Sさん)

知人に誘われてなにげなく参加しましたが、本当
に来てよかったです。もっと沢山の人に見てもら
いたい映画だと思いました。ダム建設というもの
を、身近にというか、個人の生活の問題として感
じられました。

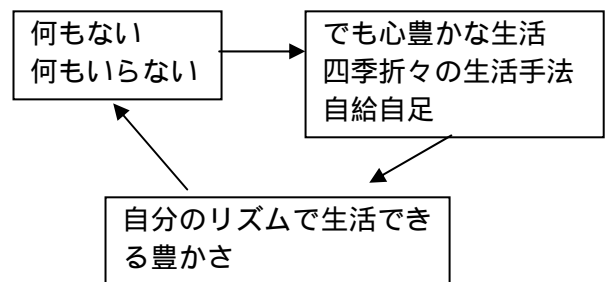
ちょうど大西さんが現地を撮られたころ、私も現
地にいったことがありました。そのときの感想。
ダム建設工事っていうと、ダム本体だけを造るイ
メージを持っていたところ、現地を見ると、それ
以外に、水の迂回のためのトンネルや、水没する
道路の付け替えなどの工事がいかに大きいもの
かということを知りました。いただいた水資源機
構のパンフをみると、住民を追い出した谷に国道
417号が冠山のふもとまで、トンネルと橋の連
続でのびていっていますが、これはいった何のた
めの道路なのでしょう。

たくさんの深い感情がつまった映画でした。なの
で、たくさんの事を感じたため、感想にまとめ
ません。ただ、映画を見終わった後、思い出す感
情は寂しい思いでした。

おっきなおはぎに山盛りのゴハン 見ているだ
けで心が豊かに



徳山村の人たちが、山や川へ行って自然の恵みを
うけながら暮らしている姿を見ていると、今、お
金を中心にして自分たちの暮らしに比べて、
何て気持ちと人としての生活が安定しているん
だろうと感じ入りました。それをこわして、どこ
か目をつぶってダムをつくってしまうシーンを
思うと本当に何なのだろうと思います。大勢のマ
スコミが、ダムに並ぶ姿を見ながら、なんて表層
だけを切り取っているのだろう、そんな映像を毎
日見てくらす自分……。色々想像をめぐらし
てしまう映画で気持ちにしみ入りました。(Tさ
ん)



胸が痛くなるようなラストシーンと、そこで流れ
た李政美さんの歌に涙が流れてしまいました。映
画の前にしゃべられた福廣さんのお話の中で、環
境をしゃべる時、主人公は誰なのか……。とい
うような言葉がありましたが、その主人公にスポ
ットをあてられた大西監督の熱い想いがとても
よく伝わりました。(Hさん)

本当の豊かさって何だろう、人間らしく生きるって何だろうと考えさせられました。今、山奥の村も私がすむ都会の町も、どんどん何かが失われていっているような気がします。世間ではダムのことですらいろいろと騒がれていますが、単純にダム反対とか賛成とかの話じゃないような気がします。もっと大事なことがあって、それに僕たちは早く気づかないといけないような気がします。その大事なことは、まだ僕にはうまく表せません。しかし、大西暢夫さんは、本当に“あったかーい人”だったなあ。(足立)



「お礼まで」

ありがとうございました。映画上映でもっとも楽しい場でした。

こんなんがいんですわ～。またしましょう。どうか今後ともよろしくお願いします。

(映画界終了後、大西暢夫監督から福廣への携帯メール)

天若湖アートプロジェクト 2008 の後援 (報告)

天若湖アートプロジェクト 2008

あかりがつなく記憶

(平成 20 年 8 月 9 日 (土) 夕刻 ~ 翌日日出)

河川塾 (平成 19 年 11 月) で本会会員の下村康史さんが実行委員長を務める天若湖アートプロジェクトの話聞いて、今年こそは行こうと決めていました。

このプロジェクトは天若湖湖面に、水没した集落の灯を一夜に限り再現する、毎年恒例のイベント。まぼろしの夜景を見るという経験を共にすることで、上流と下流、流域市民の間での共感的理解を創出しようとするもの。

当日の夕方は、児童ホームの会合に妻が出席してましたので、それが終わってからの午後 8 時半頃に家族 4 人を車に乗せて出発しました。尼崎市の自宅を出て南丹市日吉町の天若湖に着いたのは 10 時半頃。

すでに観覧イベントは終了したみたいで、人や車はほとんど見かけませんでした。湖岸の数カ所で三脚にカメラを載せて写真を撮っている人がいました。

だいぶ遅い時間になってしまいましたがせっかくの機会ですので、すっかり寝入った長男 (小 1) と次男 (3 歳) を起こしました。眠たい目をこすりながら車から出てきて、ふたりはまず空を見上げて満点の夜空にびっくり。天の川が雲のように見えました。さらに湖面の灯を見て、星みたいと長男。昔、ここに家が合ったんやでと説明すると、「そうなん」と湖面の灯りを不思議そうにしばらく眺めていました。

であい橋の欄干に「水になる前」の村の写真がはめ込まれたモニュメントがありました。田んぼや畑、里山があり、茅葺きの民家が道沿いに連なっているのがわかりました。手入れの行き届いた田畑や里山、生き生きとした人々の生活も感じられるような写真です。



湖面に目をもどせば、連なった小さな LED の灯りがあり、それを見るとそこにまだ人々が棲んでいるような感覚になります。

20 分くらい場所をかえながら湖面を観覧した後、家に向かい車を走らせました。10 分ほどすると子供たちはすぐに寝入ってしまいました。彼らには真夏の夜の夢だったでしょう。

後日、長男が夏休みの宿題だと絵日記を見せてくれました。満点の夜空もまぼろしの夜景もちゃんと覚えていたみたいです。(会員 安田博之)



安田さんの長男ゆうま君の絵日記

ホームページの作成・更新等についての事業報告

1. はじめに

当会では平成14年9月15日にホームページを立ち上げ、会の概要、入会方法、事業内容、活動報告などを公開している。

また、会員はメーリングリストに登録し、会員間の情報交換を常に行っている。

2. 実施内容

ホームページの内容は以下のとおり

- (1) 当会の概要等
 - ・ 入会方法
 - ・ 設立の経緯
 - ・ 会員紹介のコーナー など
- (2) イベント情報
 - ・ 当会主催のイベント案内
 - ・ 河川塾案内
 - ・ 他団体のイベント案内
- (3) 活動報告
 - ・ 当会の活動報告
 - ・ 河川塾通信
 - ・ 新聞記事掲載
- (4) リンク集
 - ・ 水環境等の市民団体等のリンク集



<http://www.geocities.jp/npokinkimizunojuku/>
ブックマークをお願いします。

(報告 安田)

3. 成果

平成20年4月から21年3月までの1年間で14回の更新(通算で134回)を行い、常に最新情報を発信した。過去の報告も掲載しているので、会員の資料室としての利用もされている。

4. 今後の課題

- ・ イベントの案内だけでなく、川に関わる活動をしている団体や個人の紹介するなど内容を充実させる。
- ・ 他のホームページにリンクしてもらい広く閲覧してもらうように工夫する。当会のリンク集も充実させる。
- ・ 運営経費が課題であったが、平成20年7月に無料のホームページに乗り換えることで経費削減を行った。

徳島県阿南市立新野西小学校の活動を「おやにらみ賞」として表彰

いい川・いい川づくりワークショップ(「川の日ワークショップ」を引き継ぐもの)での徳島県阿南市立新野小学校の活動報告に、当日参加した会員の久保田氏、福廣氏、上田氏が感銘を受け、近畿水の塾から、「おやにらみに未来があるで賞」として表彰状を送りました。

守ってくれて
ありがとう。



第1回 いい川・いい川づくりワークショップ 2008年9月26日~28日 番外編 2009年3月

表彰状 『おやにらみに未来があるで賞』

阿南市立新野西小学校のみなさんへ 遅くなりましたが、勝手に表彰状です。



(やっどさーやっどさー)



みなさんの発表は今も心に残っています。みなさんが守ってきた「おやにらみ」が、ぜひ次の学校にも受けつがれて、みなさんとともに育っていくよう願っています。先生達と一緒に素晴らしい活動・発表に感動した大人がいたと言うこともおぼえておいてくださいね。

NPO 法人近畿水の塾理事長 福廣 勝介

新野小と科学センターにオヤニラミが引越しをしたそうですね。ホッとします。平成7年からこれまでの苦勞とそれを通じて得られた生き物を見る目や地域の環境を大切に思う気持ちは、新しい引越し先でも引きつがれ、新たな輪がひろがることでしょう。

ねや川水辺クラブ/窪屋川再生ワークショップ
第1回いい川づくりコメンテーター上田 豪

新野西小学校のみなさん、こんにちは。私たちは2008年、いい日いい川ワークショップに参加していたものです。私たちは、どうしてもみなさんに賞を贈りたいと思い、勝手に仲間を集めてこのような表彰状をつくりました。命の大切さを、おやにらみから学んだというみなさんに感動しました。これからも、おやにらみを大切に守っていただければうれしいです。ありがとうございました。

世話人：NPO 法人近畿水の塾理事 久保田 洋一

表彰状作成：久保田、福廣、上田

河川塾 内容一覧

場所：河川情報センター 6 F 会議室（第49回まで） 環境情報センター（第49回から）

回	日時	講師 & テーマ
第1回	平成12年 11月30日(木)	第1限 定例講義 (澤井)「河川学原論」その1 『河川とは、「望ましい」川の姿』 第2限 川の情報交換 (白木)『澤井先生のマイリバー 日野川』 大阪府での『水辺の学校』、『流域懇談会』開催状況(野添) 『よこはま かわを考える会ニュース』の紹介(福廣)
第2回	12月21日(木)	第1限 新シリーズ 報告「近畿の川～探訪～」番外編 『木曽川 自然共生研究センターと河川環境楽園』 第2限 定例講義 (澤井)「河川学原論」その2 『流域と氾濫域、川の定量的な捉え方』 第3限 川のなんでも情報交換会 話題提供 「川に学ぶ」シンポジウムin近畿(足立) 『川のなんでも市』のふりかえり 河川審議会計画部会中間答申(勝山) 「流域での対応を含む効果的な治水のあり方」 平成12年度大阪府河川協会講演会の開催について(野添)
第3回	平成13年 1月18日(木)	第1限 シリーズ 報告「近畿の川～探訪～」『春木川・津田川と近木川』 第2限 定例講義 (澤井)「河川学原論」その3 『普段の川 現実の川における問題点』 第3限 特別講義 水資源開発公団(福田)『河川災害について』 第4限 川のなんでも情報交換会 『流域での対応を含む効果的な治水の在り方について』(西下) 『石川で遊ぶ バードウォッチング in 石川』(勝山)
第4回	2月15日(木)	第1限 シリーズ 報告「近畿の川～探訪～」 『澤井先生のマイリバー = 日野川の池作りに参加してきました』 第2限 徹底討論 『マイリバーとの関わり ... 日野川の池作りを例として』 第3限 川のなんでも情報交換会 『第4回淀川討論会』のお知らせ(2/24)(澤井) 『進めよう、いのちあふれる都市づくり～神戸地域生物多様性保全シンポジウム～』のお知らせ(2/24)(安田) 『春木川・轟川市民のつどい』のお知らせ(3/4)(白木江都子) 『川の世界 加古川』加古川を題材にした総合学習の副読本のご提供(田中)
第5回	3月15日(木)	第1限 自習 (澤井先生定例講義休講のため) 「川のH条件」森下郁子 他ノ著『陸水生態学からの提言』～魚の「すめる」川から魚の「すむ」川へ 第2限 シリーズ 報告「近畿の川～探訪～」『南河内 石川』
第6回	4月19日(木)	第1限 情報提供 (木村) 報告「近畿 川ものがたり」 第2限 定例講義 「河川工学」基礎編(澤井) 河道の中の流れについて 第3限 「川と人とのつきあい方」 第4限 「河川に関するQ&A」 第5限 話題提供 (岡田)「Landscape Kansai」(春号)
第7回	5月15日(火)	第1限 定例講義 「河川工学」基礎編2 ～土砂が動く～ 第2限 Q & A コーナー及び情報交換
第8回	6月19日(火)	第1限 定例講義 『河川工学』基礎編 - 3 第2限 「川に関するQ&A」「川のお悩み相談室」「情報提供」
第9回	7月17日(火)	第1限「赤目エコリゾート」合宿の報告 第2限澤井塾 小学校3年生に対する授業メモを元に意見交換会 第3限春木川の河川改修 第4限その他
第10回	9月8日(土) 名張 土谷邸	8月21日(火)台風11号のため、中止となり9月8日が第10回となる (1)澤井先生の『Eポート』 【川に学ぶ!】 「シンポ1周年!」 「シンポふりかえり!」

河川塾 内容一覧

場所：河川情報センター 6 F 会議室（第49回まで） 環境情報センター（第49回から）

回	日時	講師 & テーマ
第11回	10月16日(火)	第1限 情報提供 『川に学ぶ体験活動発表交流会について』川に学ぶ」シンポふりかえり等 (参加者の中での自由なフリートークの時間)
第12回	11月20日(火)	第1限 シリーズ 報告「近畿の川～探訪～」『河内・長瀬川』 第2限 定例講義 『河川工学』基礎編-4 (澤井)
第13回	12月18日(火)	座談会+忘年会
第14回	平成14年 1月22日(火)	第1限 シリーズ 「近畿の川～探訪」 『泉州 槇尾川』 第2限 定例講義 『河川工学』(澤井)
第15回	2月19日(火)	フリータイム 『川』のおしゃべりタイム(情報交換) 第1限 定例講義 『河川工学』(澤井) 第2限 「私の好きな川、嫌いな川アンケート」
第16回	3月13日(水)	いってらっしゃい、土谷さん！ 大々壮行会 主 催：(仮称)『近畿水環境ネットワーク』準備会
第17回	4月17日(水)	4月から第3水曜日に変更いたしました 新シリーズ 『マイリバー紹介』 堺市 土居川(その1)(西河)
第18回	5月22日(水)	新シリーズ プレゼンテーション 『マイリバー紹介』 堺市 土居川(その2) (西河) 第1限 フリーディスカッション 『土居川について』 第2限 講 評 『川の学校』(澤井)
第19回	6月19日(水)	新シリーズ プレゼン 『マイリバー紹介』 堺市 土居川(その3)(西河) 第1限 フリーディスカッション 『土居川について』 第2限 講 評 『川の学校 土居川編』(澤井)
第20回	7月17日(水)	シリーズ プレゼン 『マイリバー紹介』 三重 名張川(その1) (川上・福廣) 第1限 フリーディスカッション 『名張川について』 第2限 講 評 『川の学校 名張川編』(澤井)
第21回	9月18日(水)	シリーズ プレゼンテーション 『マイリバー紹介』 三重 名張川(その2) (川上・福廣) 第1限 フリーディスカッション 『名張川について』 第2限 報 告 会 「川の日ワークショップ」 グランプリ 寝屋川再生ワークショップ(澤井) 準グランプリ 牛滝川(野添)
第22回	10月16日 (水)	シリーズ プレゼンテーション 「NPO法人 近畿水の塾」 理事長 福廣さん 副理事長 澤井さん 第1限 報 告 会 1 「大阪 川めぐり」(古川) 第2限 報 告 会 2 『第2回川に学ぶ体験活動発表 交流会in北九州』(川上)
第23回	11月20日(水)	第1限 シリーズ マイリバー紹介 「近木川 汽水ワンド」(白木) 第2限 報 告 会 『第2回川に学ぶ体験活動発表交流会in北九州』(福廣)
第24回	12月18日(水)	特別シリーズ 流域間交流会 「大阪府 石川と近木川」(寺川・白木) 川における市民と行政の協働とは?・ミニワークショップ開催
第25回	平成15年 1月13日(月・祝)	河川塾フィールドワーク 「大阪府 石川」-(勝山) 石川流域講座生との意見交換会
第26回	2月16日(日)	河川塾フィールドワーク 「大阪府 近木川」-(白木)
第27回	3月12日(水)	マイリバーふりかえり 九州川の日ワークショップ松浦川の報告(福廣)
第28回	4月16日(水)	河川関連法についての自主学習 「自然再生法ってどんななん？」 レポート 「淀川 平成ワンドと木工沈床工」

河川塾内容一覧

場所：河川情報センター 6 F 会議室（第49回まで） 環境情報センター（第49回から）

回	日時	講師 & テーマ
第29回	5月21日(水)	河川関連法についての学習会 第1限 - 講義 - 「自然再生推進法の解説」 講師：大阪府環境農林水産部 池口主査 第2限 全体討論会 「自然再生推進法とは？」
第30回	6月18日(水)	「水辺空間と人の関わり」 京都造形芸術大学 学生チームの木津川精華町での調査発表会（下村）
第31回	7月16日(水)	「近木川 自然再生事業」 大阪府貝塚市近木川での自然再生事業に向けての課題・取り組み方（白木）
第32回	8月20日(水)	「近木川 自然再生事業」 大阪府貝塚市近木川での自然再生事業に向けての課題・取り組み方（澤井）
第33回	9月17日(水)	第1限.「近木川」 第2限.「私の水辺」大発表会2003～水辺や水辺活動の評価手法、評価基準を考える～
第34回	10月15日(水)	第1限 - 第4回全国源流シンポジウム in 高津川大会 報告（福広） 第2限 マイリバー紹介 尼崎市「庄下川」（安田）
第35回	11月22日(土)	リバーウォッチング庄下川 よみがえれ庄下川～川・人・街の風景～（午後1時～5時）
第36回	12月17日(水)	北桂川の流域見聞について（下村）
第37回	平成16年 1月21日(水)	流域委員会シリーズ 淀川水系流域委員会「意見書」を読む ～淀川河川整備計画基礎原案から（1）～（澤井）
第38回	2月18日(水)	流域委員会シリーズ 淀川水系流域委員会「意見書」を読む ～淀川河川整備計画基礎原案から（2）～（澤井）
第39回	3月17日(水)	河川塾フィールドワーク 摂南大学実験視察 ～近木川汽水ワンド実験～
第40回	4月21日(水)	流域委員会シリーズ 淀川水系河川整備計画策定について ～流域委員会の活動について（1）～（川上）
第41回	5月19日(水)	マイリバー 寝屋川再生ワークショップからの報告（上田、澤井、久保田）
第42回	6月16日(水)	流域委員会シリーズ 淀川水系河川整備計画策定について ～流域委員会の活動について（2）～（川上）
第43回	7月21日(水)	シリーズ 大和川を語る ～都市河川としての大和川の過去・現在・未来～（角野）
第44回	8月18日(水)	レポート 大和川・淀川流域連携水環境交流会2004 新潟・福井水害
第45回	9月15日(水)	歴史と文化の中の川づくりを考える ～近畿水の塾への期待、役割～（角野）
第46回	11月17日(水)	水資源と環境 ～淀川水系の水資源の量と質～（大阪府立大学荻野教授） 10/20の河川塾は台風23号の接近で中止になりました。（被害を受けられた皆さまには心よりお見舞い申し上げます。）
第47回	12月15日(水)	シリーズ NPO活動と市民協働の実態 ～三島グランドワークにおける政策自主研究報告（速見）
第48回	平成17年 1月19日(水)	シリーズ NPO活動と市民協働の実態 ～NPO法人里山倶楽部の紹介～（寺川）
第49回	2月17日(木)	シリーズ 堺7-3区共生の森の活動紹介（速水）
第50回	3月16日(水)	シリーズ 浜寺水路でのコンブ育成実験（前田）
第51回	4月27日(水)	シリーズ おおさかレインボウプロジェクト ～雨みずからはじめる豊かなまち～（足立）
第52回	6月22日(水)	シリーズ 都市と農の共生する地域 （まち）づくり都共生ネットこうべ(非営利組織) 本位田 有恒氏
第53回	8月31日(水)	流域委員会シリーズ 淀川水系流域委員会からの報告（澤井）
第54回	9月28日(水)	シリーズ 寝屋川再生ワークショップからの報告（久保田、澤井）

河川塾 内容一覧

場所：河川情報センター 6 F 会議室（第49回まで） 環境情報センター（第49回から）

回	日時	講師 & テーマ
第55回	10月26日 (水)	流域委員会シリーズ 淀川水系流域委員会からの報告(その2)(澤井) 於：琵琶湖・淀川水質保全機構(BYQ)4階会議室
第56回	11月26日 (土)	河川塾フィールドワーク ～寝屋川駅前せせらぎ広場と点野ワークショップ見学～(上田、澤井)
第57回	12月27日 (火)	レポート 都市のウォータースケープ計画に関する国際ワークショップ ～水によみがえる懐かしい未来都市 堺～(久保田)
第58回	平成18年 1月25日(水)	マイジョブ&マイリバー 水の家からウォーターサロンへ BUD代表 上岡康宣氏 於：ウォーターサロン
第59回	2月22日(水)	シリーズ 琵琶湖・淀川水系での水環境保全 ～BYQの取組みについて～(河野) 於：琵琶湖・淀川水質保全機構(BYQ)4階会議室
第60回	3月22日(水)	近畿水の塾や河川塾の一年をふりかえるワークショップ ファシリテーター：久保田
第61回	4月25日(火)	マイジョブ&マイリバー 水と人と自然 竹尾敬三
第62回	6月28日(水)	流域委員会シリーズ 淀川水系流域委員会からの報告 ～河川整備計画基礎案に係る事業進捗状況の点検～ 澤井健二
第63回	7月27日(木)	シリーズ 芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク」の取組み TKK自然観察会代表 田口圭介氏、 中山香代子
第64回	8月22日(火)	マイジョブ&マイリバー 日本とドイツの水の使い方の差、ヴァーチャル・ウォーター、 地球温暖化について 疋島巖
第65回	9月26日(火)	レポート 水郷・水都全国会議大阪大会から得たもの(ここだけの話) 久保田一、久保田洋一
第66回	10月24日 (火)	マイジョブ&マイリバー 道頓堀川を中心として変わりはじめたミナミ 有限会社エイライン 横山 葵氏
第67回	11月29日 (水)	マイジョブ&マイリバー 仕事の広がり、人つながりから 白木江都子
第68回	12月26日 (火)	シリーズ 公共交通機関としてのLRTの可能性について 石塚昌志
第69回	平成19年 1月23日(火)	マイジョブ&マイリバー 環境調査の実状 米花正三
第70回	2月28日(水)	拡大版河川塾 LRT試験線(トランスロール)試乗、研修センター見学など 案内 石塚昌志
第71回	3月20日(火)	マイジョブ&マイリバー 真言宗醍醐派総本山「醍醐寺」全山改修30年計画 磯貝猛
第72回	4月26日(木)	マイジョブ&マイリバー 高瀬川のほとり 京都樽屋「樽徳」会長 宮本 博司
第73回	6月28日(木)	マイジョブ&マイリバー 自然と文化の森協会の活動紹介と猪名川自然林の植生調査から 白樫 誠治
第74回	8月28日(木)	マイジョブ&マイリバー 武庫川流域委員会での私の思い 松本 誠(武庫川流域委員会委員長)
第75回	9月25日(木)	マイジョブ&マイリバー NPO・行革と公益法人改革の流れから 末村 祐子(大阪経済大学客員教授)
第76回	10月23日(木)	マイジョブ&マイリバー 私の環境年表～行政経験を中心として～ 南 隆雄
第77回	11月27日(木)	マイジョブ&マイリバー 天若湖アートプロジェクト これまでとこれから 下村 泰史&さとうひさ彥(アートプランまぜまぜ)
第78回	12月25日(木)	マイジョブ&マイリバー マイリバーとマイチャリンコ 西村 浩一(毎日新聞編集委員)
第79回	平成20年 2月23日(土)	マイジョブ&マイリバー 指定管理者制度の功罪、今後のあるべき姿など 樋熊 浩明(西武造園株式会社) 於 アピオ大阪4階松の間
第80回	3月25日(火)	マイジョブ&マイリバー 寝屋川市における環境用水の可能性 山本 智志
第81回	4月23日(水)	マイジョブ&マイリバー 自然環境復元は、人間性の回復だ!! 前田 誠一郎 於 大阪駅前第2ビルキャンパスポート大阪

河川塾 内容一覧

場所：河川情報センター 6 F 会議室（第49回まで） 環境情報センター（第49回から）

回	日時	講師 & テーマ
第82回	6月24日(火)	マイジョブ&マイリバー 川づくりの最前線 小俣 篤
第83回	7月22日(火)	流域委員会シリーズ 川への思いと企画シンポジウム「全国川シンポ」への期するもの、 広報 今本博健(京大名誉教授・元淀川水系流域委員会委員長)
第84回	9月6日(土)	古老に聞くシリーズ 第1回「おじいちゃんの仕事、おばあちゃんの暮らし」ヒアリング 名張市下比奈知鈴木幹子さん宅にて 鈴木幹子さん、紀さん、雄治さん
第85回	9月30日(火)	マイジョブ&マイリバー 上下流の住民交流の必要性について 久保田 洋一、寺川 裕子
第86回	10月21日(火)	流域委員会シリーズ 猪名川自然林の保存運動、流域委員会での経験特に一流域住民が流 域委員会に加わることの意味、藻川の堤防を考える会の活動など 細川 ゆう子氏(元淀川流域委員会)
第87回	12月22日(月)	マイジョブ&マイリバー 百姓見習い～ある都市農家長男による稲作記録の報告～ 安田 博之
第88回	平成21年 1月27日(火)	マイジョブ&マイリバー 水と共に暮らす事の意味 福廣 勝介
第89回	2月24日(火)	マイジョブ&マイリバー 環境モデル都市・堺 船本 浩路
第90回	3月24日(火)	マイジョブ&マイリバー 数値解析による上野遊水地の洪水調節効果に関する研究、 ボクの遊んだ川と田んぼ 村田 遼介

河川塾 番外編・拡大版

平成13年2月12日(月)午前10時から午後5時 澤井先生のマイリバー『日野川』 日野川の河川敷に手づくりの親水空間 『ピオトープの池』を作ろう!
平成13年6月30日(土)~7月1日(日) 三重県名張市『赤目の森 エコリゾート』他 赤目の森ハイキング NPO「赤目の里山を育てる会」の活動講演 赤目の里でホテル観察会 澤井河川塾 大討論会 探索 名張川 まちかど散歩 『名張』 e t c . . .
平成13年5月27日(日)午前10時~ 澤井先生のマイリバー『日野川』 日野川の河道内に人工的な交互砂州を作ってみる! L = 約200mの実験区をつくり、梅雨時の変化状況を調べる。
平成14年4月14日(日)午後3時~5時 5月19日(日)午後2時~4時 現地見学会 『マイリバーに出かけよう!』 堺市二級河川 内川水系土居川
平成14年10月12(土) フィールドワーク第1弾「大阪 川めぐり」(古川)
平成14年12月1日「私の水辺大発表会」第2次発表会(ドーンセンター) 近畿水の塾参加発表
平成15年4月3日(木)13:00~17:00 河川塾フィールドワーク 大阪府 淀川 ~淀川長柄橋上流右岸木工沈床見学会~ (澤井)
平成15年4月23日(水)18:30~21:30 「柳川堀割物語」ミニ上映会 交流会 21:30~
平成15年7月21日(祝)11:00~16:00 フィールドワーク 「木津川 水辺空間と人の関わり」 京都造形芸術大学 木津川チーム の取り組み
自然再生連続シンポジウム 第1回 平成16年2月22日(日)12:30~15:30 於:NPOプラザ 「法に託された思いと可能性」 話題提供:佐藤寿延さん(環境省)、恵小百合さん(江戸川大学) 第2回 平成16年3月13日(日)13:30~16:30 於:UFJ総研 「自然環境権と自然再生推進法」 話題提供:池上徹さん(弁護士)、佐藤寿延さん(環境省) 第3回 平成16年4月24日(土)13:30~16:30 於:UFJ総研 「自然再生推進法をどう使おう?」 参加者全員によるディスカッション
平成16年10月30日(土)13:30~ 於:大阪府環境プラザ 「旭川源流の碑」の活動 竹原和夫さん(旭川流域ネットワーク)
平成17年2月26日(土)13:30~ 於:大阪府環境プラザ ワークショップ&交流会 ~近畿水の塾振り返り~ (話題提供)舞岡・世田谷まちづくり委員会の活動から指定管理者制度について(佐藤)

平成17年11月12日(土) 於：尼崎市立小田公民館
 技術の自治とは？～市民も参加する公共事業～ 映画「阿賀に生きる」を監督と観る
 1部 12:30～15:00 「阿賀に生きる」上映と解説
 2部 15:15～17:00
 (講演)「技術の自治とは？～市民も参加する公共事業～」
 (講師)大熊孝氏(新潟大学教授・阿賀に生きる製作委員会代表)
 (ゲスト)佐藤真氏(「阿賀に生きる」監督・京都造形芸術大学教授)

平成17年11月26日(土) 河川塾フィールドワーク(第56回河川塾)
 ～寝屋川駅前せせらぎ広場と点野ワークショップ見学～
 1部 12:00～ 寝屋川駅前(西側)せせらぎ広場見学
 2部 13:30～16:00 ワークショップ見学
 於：摂南大学スカイラウンジ(11号館11階、第5会議室)
 案内：(寝屋川市役所)上田氏、(摂南大学工学部)澤井氏

平成19年2月28日(水) 拡大版河川塾(第70回河川塾)
 ～堺浜 LRT試験線(トランスロール)試乗、研修センター見学など
 1部 14:20～ 堺浜 LRT試験線の説明と試乗
 2部 16:10～ 大小路 LRT研修センター見学
 3部 17:15～ 阪堺電気軌道(チンチン電車)にて 石津駅「さかなや」にて懇親会
 案内：(堺市役所)石塚氏

平成19年6月2日(土) 14:30～16:00 於 環境情報プラザ 総会終了後 記念講演
 高槻のローカルヒーローが語る！市民活動37年の足跡 田口圭介氏

平成19年7月14日(土) 14:00～17:00 於 アピオ大阪4階竹の間
 中村 轟(ひとし)さんに聞く ～ブラジル・クリチバの夢～ 裏話や失敗話も

平成20年9月6日(土) 河川塾フィールド版(第84回河川塾)
 第1回「おじいちゃんの仕事、おばあちゃんの暮らし」ヒアリング
 ～主に、名張川の環境、名張川との暮らし今昔を聞きました～
 1部13:30～16:00 ヒアリング
 2部16:00～18:00 懇親会
 3部17:00～17:30 休憩・テレビ放映鑑賞
 名張市下比奈知鈴木幹子さん宅にて
 話し手 「鈴木のお母さん」=鈴木幹子さん(79歳)
 「そば紀さん」=鈴木紀さん(68歳)
 「ゆうさん」=鈴木雄治さん(65歳)